

12月19日（火） 「総合的な探究の時間」 研究論文発表会

総合学科である本校の伝統行事である研究論文発表会が行われました。3年次生が1年間に渡って取り組んできた研究論文（6000字）の梗概を、各自6分間に凝縮して3年次生全員がプレゼンする行事です。全17会場に分かれ、1・2年次生が発表を聴き、気になるところを質問しました。1年次の「産業社会と人間」、2年次の「基本探究」を土台に、いわば、総合学科の探究学習の集大成ともいえるべき一大行事です。発表する生徒は準備に余念がありません。

なぜ、このテーマを選んだのか、何を明らかにするのか、先行研究を丹念に調べ、資料を読み込み、アンケートを取り、関係者に取材し、自分の仮説を検証する地道な探究から得た成果を、制限時間いっぱい^{けんきょうふかい}に発表しました。中には、自説にこだわるあまり、牽強付会なデータ分析もなくはなかったのですが、情熱と勢いがあり、妙に説得力がありました。結論を急がず、客観性と実証性を踏まえた論旨の展開に気を配れば、より優れた論文になると思います。卒業しても学びは続きます。総合学科で学んだことを、将来、さらに発展させ探究を深めていってほしいと願います。

1・2年次生は、「先輩方、凄いな、後1年で（2年で）、あんな凄い発表ができるだろうか」と感じたようです。でも、3年次生から後輩へのアドバイスで勇気もらった様です。好きなことをテーマにすること、いきなり、6000字を考えずに、章立てを考え、そこに考えたことをどんどん放り込めば、気づくと論文は出来ているなど。このようにして、総合学科である太子高校の伝統が、引き継がれていくことを大変頼もしく感じ、実感した年の瀬でした。以下に、研究論文のいくつかのテーマを例として記します。

「ゲームは健康にどのような影響を与えるか」「結婚の歴史と意識はどのように変化してきたか」「エンカルの意味を知るとは社会を変える一歩になるのか」「音を電気に変えることそして利用する方法」「子ども食堂から得られる効果は何か」「人の性格は顔にでるか」「和食は本当に健康的なのか」「身体への負担が小さい健康な住宅とは」

